



研究国際担当理事就任のご挨拶



金沢大学理事
(研究国際担当)
副学長
長野 勇

本年3月まで工学部ならびに自然科学研究科に在籍し、プラズマ波動工学、電子・情報工学などの教育と研究に携わってきました。また、国内外の産官学との共同研究も数多く行ってきました。マネジメントの関わりは平成12年に総合情報処理センター長を拝命し、来るべきIT化社会に大学が対応できるように情報基盤、学術情報、情報教育の3部門体制の金沢大学総合情報メディア基盤センターを設立する機会を得ました。この間金沢大学技術移転活動にも参画させていただきました。昨年は、自然科学研究科副科長として研究国際企画委員会に出させていただきます、全学の諸先生方と金沢大学の研究国際のあり方について学ばせていただきました。

このたび平成18年4月より研究国際担当理事の職を拝命いたしました。担当の所管事項は、研究推進、産学連携、知財、国際交流など多岐にわたっております。与えられた担当職務はいずれも金沢大学にとっては大変重要であり、いずれも大学の評価(ランキング)に直接関係する項目であり、法人ならびに教職員の総意を得て、責務を果たしたい所存です。

伝統と歴史のある総合大学としての金沢大学は文理両面において優れた教員を数多く有する大学であり、研究面ではその能力を十分発揮できるように研究推進戦略を重点事項として取り組んでいきます。

4月末の役員懇談会では、研究戦略の大方の取り組みを決める研究戦略会議、それを実行する研究戦略室の体制が認められ、早速、金沢大学の研究推進戦略や科学研究補助金などの競争的資金の獲得に関する分析・評価を開始しました。また、学内の研究連携協力、国の内外の研究者・研究組織との共同研究、

産官学連携、国際交流など、これまで以上に金沢大学の実力が発揮できる体制に取り組みます。とりわけ、民間企業との共同研究は社会貢献という大学の教育・研究以外の重要な使命であり、山本博共同研究センター長と連携を取り強力に推進する所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新任産学官地域アドバイザーの紹介



村上 和幸
産学官地域アドバイザー

金融マンとしてこれまでの経験と知識を活かし、地域産業の活性化と私どもの主力取先である中小企業の総合的な事業支援の推進を図っていきたく、今回「産学官地域アドバイザー」を拝命し、これを機会に大学のシーズと企業ニーズを繋ぐ窓口としてアドバイザー活動を積極的に展開して行こうと考えております。

センター新任スタッフの紹介



川江 一枝 事務補佐員

平成18年4月から共同研究センタースタッフとして仲間入りしました。産学連携の発展は勿論のこと、皆様全てが働きやすい環境になるよう、微力ながら頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

金沢大学共同研究センター
NEWS LETTER 第11号 May.2006
発行 金沢大学共同研究センター
住所 〒920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-6111 FAX 076-234-4019
E-mail ccr@ad.kanazawa-u.ac.jp
http://www.ccr.kanazawa-u.ac.jp/

共同研究センター長就任のご挨拶
～産学クラスターの創生と展開を目指して～

金沢大学
共同研究センター長
(医学系研究科 教授)
山本 博

平成18年4月1日付けで、金沢大学共同研究センター長兼金沢大学産学官連携推進室長を併任するところとなりました。私は、本学医学部を昭和50年に卒業後、富山医科薬科大学医学部助手、東北大学医学部助教授を経て、平成2年から医学部生化学第二教室、平成13年からは大学院医学系研究科血管分子生物学研究分野を担当してきました。生化学、糖尿病学、血管生物学、ゲノム機能学を主たる専門分野としております。平成14年頃から、金沢大学の産学官連携体制の構築に参加してきましたが、何分にも一基礎医学徒であり、各位のご指導ご協力をお願い申し上げます。

大阪市立大学・田口直樹助教授によれば、石川県は産業集積とくに産地型産業集積の好例とされます。この集積の濫觴は江戸時代初期に遡ります。加賀藩祖・前田利家による金箔の、三代・利常による漆器・蒔絵の、大聖寺藩祖・利治による陶器の人材

や技術の導入が集積を発生させるうえで重要な契機となったようです。これらの初期産業の流れは食品関連機器産業、制御機器産業、電気機械産業や情報産業へと展開し、今日に至っています。金沢大学共同研究センター協力会には多数の企業のご参加をいただいておりますが、そのうちの少なからぬ企業名をこの産業系譜に見出すことができます。この集積の歴史から学ぶことは多いと思います：(1)無から有は生じず、積極的な導入が繁栄につながる、(2)集積は相互依存しつつ継続する、(3)一つのイノベーションは伝統も生み、つぎのイノベーションも生むことなどです。

高等教育機関の求心力を示す指標の一つに、大学・短大・専門学校への進学者数を18才人口で除した「取容力」というのがあります。過去20年間の取容力の伸び率を中教審資料に基づいて算出してみると、北陸地域は全国13地域中第3位と高い求心力を有していることがわかります。金沢大学をはじめとする北陸三県の学術機関が擁する教育研究の陣容とアクティビティーがこの求心力を支えているものと推察します。

現代における産学の連携がこの地域における新しいクラスターの形成と展開につながりますよう、微力ではございますが、それにいささかでも貢献できればと願っております。

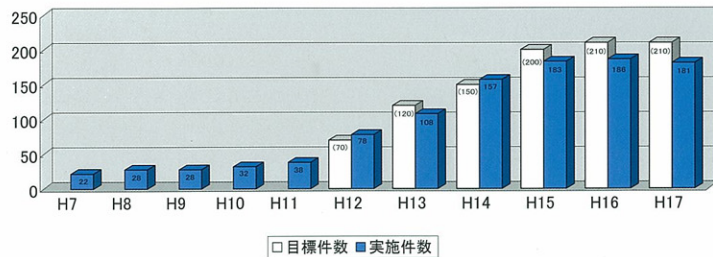
平成17年度 共同研究実施状況について(平成18年3月31日現在)

皆様のご支援により、昨年は前号でお知らせした以外に、以下の共同研究が新たに始まりました。総合大学の強みを生かし、ものづくりからバイオまで広い範囲の共同研究を実施することができました。ただ、昨年度の共同研究の総数は下図にあるように、181件にとどまり、一昨年に引き続き足踏み状況です。共同研究件数は大学の社会貢献の指標のひとつでも

あり、残念な結果となってしまいました。

本年度は、昨年の状況を反省し、より地域の皆様にお役に立てるよう、技術相談や技術シーズの発表・展示等を強化し、皆様との接触の機会を増やしたいと考えています。そして、その結果として共同研究件数も増えるよう全学を上げて努力いたします。皆様の暖かいご支援をお願いいたします。

共同研究実施の推移



□目標件数 ■実施件数

共同研究テーマ

契約件数37件

大学院医学系研究科

- 天然物の基礎的研究
- 健康食品と脳機能との関連に関する研究
- OBP-401の婦人科癌、特に子宮頸癌及び子宮体癌診断への応用検討
- 各種疾患患者の血液中CoQ10濃度に関する研究
- 子宮がんにおける細胞診SurePath Thinlayer標本の有用性
- 睡眠時の非侵襲生体計測に関する研究
- βアドレナリン受容体抗体を用いたβ受容体数測定法の検討

医学部附属病院

- がんにおけるAMTを用いた臨床試験
- PC上で動作する心筋SPECT画像解析システムの研究開発
- デジタルマンモグラフィにおける画像観察システムの研究
- 動脈硬化症に対する新しい無侵襲検査法の確立

大学院自然科学研究科(理学部)

- 水素用磁気冷凍システムの研究開発

大学院自然科学研究科(薬学部)

- 緑茶成分の脳機能に及ぼす影響に関する研究
- 揮発成分評価技術に関する研究

大学院自然科学研究科(工学部)

- 狭指向性平面アンテナの開発

- 長コイル・パルス変調誘導熱プラズマを用いたナノ粒子生成
- スピーカ指向特性の改善に関する研究
- ACFハニカム触媒の最適構造に関する研究
- ユビキタスヘルスマニター技術の開発
- 基礎の解析ソフトおよび載荷試験装置に関する研究開発
- 雪氷路面の凍結防止対策について
- 焼結材料の機械的特性に及ぼす組織形態の影響
- 推測航法におけるカルマンフィルタに関する研究
- 画像圧縮伸張回路に関する研究
- 視差画像空間の尤度に基づく解析による障害物検知およびその定量的評価
- 茶成分の化学的性質に関する研究
- 森林と土壌による排水浄化・地下水涵養に関する調査
- 重金属存在下で有機物を分解する方法
- ヘテロ元素を含む新規不斉配位子の開発研究
- がん研究所**
- 薬剤耐性関連遺伝子発現がん細胞を用いた抗癌剤感受性の評価
- 自然計測応用研究センター**
- 植物の重金属浄化機能と植物種の選定に関する共同研究

その他6件

第2回企業発表会「企業の夢と大学に託す希望」の開催

1月11日、共同研究センター主催による第2回企業発表会「企業の夢と大学に託す希望」が開催されました。

この発表会は、共同研究センター協力会会員企業各社より企業の夢と大学に託す希望を発表いただくことにより、企業ニーズを汲み取り、今後の産学官連携推進に寄与することを目的として企画されたものです。当日は、小松電子株式会社 常務取締役 吉田 哲郎氏と同環境アドバイザー 今井田 崇氏より「RECO循環システムは我社の明日への姿勢」、太平洋工業株式会社 人事部マネージャー 小川 修司氏より「ようこそバシフィックへ」、横河電機株式会社 ライフサイエンス事業部技術統括室長 佐藤守氏より「横河電機金沢進出と新事業の立ち上げ」と題して講演が行われました。その後、懇談会も開催され、活発な意見交換が行われました。

平成17年度 起業家育成セミナーの開催

2月21日、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーと共同研究センターが主催で、平成17年度起業家育成セミナーが開催されました。

同セミナーは、起業家への関心を持った企業の方や、大学生、大学院生等を対象としたもので、金沢市異業種研修会館 館長 松村 文夫氏より「私の共同研究体験とベンチャービジネス、金沢市の産業活性化への取組み」、福井大学医学部 藤井 豊助教授より、「身近なベンチャービジネス～分子模型製作キット～」と題して講演が行われました。その後、共同研究センター 瀬原 浩一教授からディスカッション等も行われ、参加いただいた方々からは大変好評を得ました。

「金沢大学の新技术説明会」の開催

4月5日、(株)北國銀行、(有)金沢大学ティ・エル・オー、共同研究センターの主催で、「金沢大学の新技术説明会」を開催しました。

同説明会では、産学官連携コーディネーター 平野 武嗣氏から「金沢大学の産学連携と技術移転」について講演の後、自然科学研究科 榎本 啓士助教授より

「ハイブリッド燃焼技術～燃えにくいものを電磁波サポートバイオマスからロケットまで～」、同 立矢 宏助教授より「下肢障害者のための上体の姿勢保持及び動作支援装置」、医学系研究科 榎本 鉄教授より「非加熱型深部体温計」の発表が行われました。新技术説明会は、発明者自身が、企業関係者を対象に実用化を展望した技術説明を行い、広く実施企業を募るもので、県内企業からの多数の参加者の下、熱心な討論が行われました。

こまつものづくりフォーラムの開催

2月28日、小松市、日本政策投資銀行北陸支店、共同研究センター主催で、「ものづくりのまちの再構



基調講演をするコマツ取締役(兼) 常務執行役員 鈴木康夫氏

築を考える」と題し、こまつものづくりフォーラムが開催されました。このフォーラムは、コマツの鈴木 康夫 取締役(兼) 常務執行役員を講師に招き「コマツの経営戦略とものづくりのまち小松への期待」と題して講演の後、日本政策投資銀行より「こまつものづくりクラスター調査」の結果報告、金沢大学による技術研究の発表会、昨年開設された小松サテライトの活動報告等が行われました。

(独)科学技術振興機構平成18年度「シーズ発掘試験」公募説明会の開催

4月7日、(独)科学技術振興機構平成18年度「シーズ発掘試験」の公募説明会を開催しました。

このシーズ発掘試験は、大学等に配置されている各種コーディネータ等が発掘した大学等の研究シーズの実用化を促し、コーディネータ等の活動を支援することを目的としています。

当日は、(独)科学技術振興機構研究成果活用プラザ石川の科学技術コーディネーター 梶川 政右衛門氏、シーズ育成スタッフ 杉山 陽子氏による公募説明の後、過去の申請事例も、共同研究センター客員教授・産学官地域アドバイザー 奥野 信男氏から紹介され、本公募に関心のある教員等が、熱心に聞き入りました。